



# 埼玉支部報 第12号

目次

ヒマラヤ遠征隊概要報告	1	埼玉100山 参加者からの報告	9
平成26年度支部総会報告	5	3支部合同山行報告	9
ふれあい登山報告	6	会員/会友異動状況	10
ハイキングレスキュー講習会報告	7	支部事業案内	10
陸地測量部講演会報告	8	全国支部懇談会ご案内	10

## 埼玉支部創立5周年記念・日本山岳会110周年記念事業 ヒマラヤ・チュルー最東峰6038m登頂と トレッキング遠征隊概要報告

今回の遠征は、埼玉支部5周年記念事業ということで、埼玉支部が4年余で築きあげてきたチームワーク、毎月の山行で培った体力、登山技術を踏まえてヒマラヤの6000m峰登頂と長期トレッキングにチャレンジしようという計画であった。遠征隊は、登山隊9名、トレッキング隊5名の合計14名で催行された。トレッキング隊にはアルパインツアーサービス(株)から小林TL(ツアーリーダー)が同行した。登山隊は、あと僅かのところで山頂を踏むことはできず、トレッキング隊は、ナムチェまで詰めながらエベレストの雄姿を望むことが叶わないなど、些か残念だった点もあったが、神様のちょっとした意地悪だったのだろう。参加者全員が夢にチャレンジし、頑張っ、それぞれに夢を掴んだのではないかと思う。5周年事業として成功であったかどうかは参加者一人一人の心が決めることであろうが、全員が無事帰国できたことが何よりであった。



アッパーピサンからアンナプルナII峰を望む

■文化交流活動について

今回は埼玉支部の社会貢献活動の一環として、ネパールの子供たちを訪問して文具をプレゼントした。文具は、昨年もお世話になった立正大学(熊谷キャンパス)のご好意でたくさんのご寄贈をいただいた。登山隊は、カトマンズの整形外科病院と登山途中の山村の学校を訪問し、トレッキング隊はトレッキング途中の学校を訪問した。実にささやかな活動ではあったが、子供たちの弾けるような笑顔が目に焼き付いて離れない。



カトマンズの病院を訪問  
入院中の子供にプレゼント



ランドルンの小学校を訪問し  
文具をプレゼント

■登山隊報告 ◆メンバー 古川史典(隊長)、高橋努(隊長代行)、菊池武昭、清登緑郎、正田範満、正田緑、宮川美知子、橋本久子、安瀬善一

カトマンズ出発の朝、道路工事のためベシサールから車で3時間先のチャムジェまでしか車で入れないとのバッドニュース。チャムジェから徒歩でチャメまで3日かかってしまった。おまけに2日目のダンキューで異常低温に見舞われ、隊員とシェルパの何人かが風邪をひく。特に、古川隊長とダヌルサーダーが重症。結局、二人はBCに上がれず登山には不参加となってしまった。それでも残りの8名は順調にカルカ～BC～ACと高度を上げ、4月30日にはほぼ予定通りAC5300mに集結した。全員がパルスオキシメーター数値も90前後を維持し、高度障害は全くなかった。

登頂日は2:00AM 出発である。急な雪壁をフィックスロープとアッセンダーを頼りにぐんぐん登る、アタックの登りは本当にきつい。7時頃には推定5840m地点に到達。しかし、ここでルート工作に先行したシェルパが戻り、この先はブルーアイス状態で氷が硬くアイゼンが利かない。極めて困難で危険である。これ以上安全に上ることは不可能である、とのこと。高橋隊長代行は、シェルパの判断を受けざるを得ないし、一部の隊員を登らせるためにパーティーを分けることは、より危険な下山を考えると選択できないと考え、この地点で登頂を断念し全員で下山することとした。

下山は長い懸垂下降の連続で時間もかかり、途中で登行を断念し先行下山していた隊員がヒドンクレバスに転落するなどのアクシデントもあり、15時に一同かなりへとへと状態でBCに帰着した。ろくに食事もとれない13時間の行動であった。

下山後は、マナンで1日休養し、再び5416mのトロンパス越えに挑戦した。パス越えの日は3:30AM 出発し、最後のメンバーがロッジに着いたのは14:30。11時間の行動となった。高度順化済みとはいえ、やはり5000mを越えた登りはきつかった。乾いた大地を毎日ひたすら歩き、最後にはジョムソンへの河原の道で目も開けられないような烈風に煽られるおまけもあった。しかし、マナスルに始まり、アンナプルナ山群を飽きるほど眺め、そして最後にダウラギリの雄姿を目の当たりにすることができた。まさに、この世のものとは思えない景色の連続であった。

ガイド任せのツアーとは違い、毎日の行動やシェルパとのコミュニケーションなど苦勞することも多かったが、それだけに充実した23日間であった。



AC からチュルー最東峰  
ルートは左のスカイライン



推定 5840mの最高到達点



トロン・パス 5416m 後方にダウラギリが見える

■トレッキング隊報告 ◆メンバー：藤野欣也、大久保春美、松本敏夫、石塚昌孝、高橋八千代

トレッキング隊は、前半はポカラを起点にアンナプルナ内院 12 日間、後半はエベレスト街道ナムチェまでの往復 5 日間という、二つのトレッキングを堪能した。

標高 4130mのアンナプルナ・ベースキャンプ (ABC) へは、ポカラからバスで 1.5 時間ほどのナヤプル (1070m) から歩き始めた。モディ溪谷に沿った道は整備されており、派生する尾根を上り下りしながら徐々に高度をあげていくことになる。韓国人や中国人のトレッカーが多いことに驚きながら、シャウレバザール、ジヌーダнда、バンブー、デウラリ、マチャブチャレ BC のロッジに泊まり 6 日目に ABC に到着した。早い人なら 4 日あるいは 5 日のルートである。アンナプルナサウス、ヒウンチュリ、そしてマチャブチャレの雄姿を、角度を変えて楽しむことができ、また段々畑のなかに点在する民家の生活を覗きながらの毎日は、飽きることがない山旅であった。マチャブチャレ BC からは雪上を歩きながら ABC に到着。内院という言葉どおり、ABC からの 360 度の景観は圧巻であり、我々を十分満足させてくれるものだった。帰路は、ニューブリッジまでは往路と同じルートだが、ここからモディ溪谷の左岸にルートをかえ、ランドルン、オーストリアンキャンプを経てカーレにでて、迎えのバスに乗りポカラへもどった。

後半は、いよいよエベレスト街道である。天候により欠航が多いカトマンズ・ルクラ便だが、往復ともに予定どおりに乗ることができ、余裕のある日程でナムチェまで歩くことができた。ナムチェ手前の標高差 600mの急坂も、すでにアンナプルナで高所への適応ができていたため、辛さを感じることなく到着することができた。ナムチェに2泊し、エベレストビューホテルからクムジュンまで足を延ばしてエベレストとの対面を願ったが、残念ながら雄姿を眺めることは叶わなかった。心残りではあったが「また来る」口実ができたようで、またの再会を願ってナムチェを後にした。

さて、トレッキング隊5人の平均年齢は70歳、最高齢は79歳の藤野さん。高齢者集団での高所登山であることを踏まえて日程には余裕をもちながら、「ビスタリ・ビスタリ (ゆっくり)」を合言葉に、風景やその土地の文化を楽しみながらのトレッキングを楽しむことができた。著しい高度障害がでた者もなかったが、自分たちの年齢や体力を過信することなく、外部の環境に適応するような行動をとることを心掛け、全行程をとおして①ゆっくり歩行、②積極的な水分摂取 (一日の水分摂取量は、標高 (m) と同数の量 (ml) が目安)、③食べ過ぎない、④昼寝はしない (高所順応のため) ⑤体温保持、を心掛けたが、ツアーリーダーの小林さんに食事や行動などに細心の注意をほらっていただいたおかげとも言える。高所ロッジでの「湯たんぽ」も、安眠の保持に効果的であった。



アンナプルナサウス (左) とヒウンチュリ (右)



マチャプチャレを背に ABC に向かう



(左) アンナプルナ BC

\*遠征隊では、現在、報告書を作成中です。追って、埼玉支部ホームページに掲載する予定です。  
 詳細は報告書をご覧ください。

( 高橋 努 記 )

## 【総務委員会報告】

## 平成26年度支部総会開催

平成26年度の支部総会が4月12日(土)、埼玉会館で開かれた。会員現在数136人のうち、出席40人委任状64人で、総会は成立した。

松本副支部長の司会で始まり、総会の冒頭、大久保支部長より「埼玉支部は設立5年目を迎え、今後ますます会員との連携をより積極的に行い活発な支部活動を行えるよう、会員皆で推進していきましょう」との挨拶があった。総会は、支部規約により大久保支部長が議長となって進められた。

1号議案 平成25年度事業報告(案)は、富樫事務局長が、決算報告は正田緑会計担当が報告し、宮川監事より監査報告があった。審議後原案は承認された。

2号議案 公益社団法人埼玉支部委員(案)について説明され、質疑・意見ののちに原案どおり承認された。承認後、支部長以下の役職就任についての報告と紹介がされた。

平成26年支部委員会体制は次のとおり。

(支部長) 大久保春美、

(副支部長) 野村孝義、松本敏夫、

(支部委員：再任)

富樫信樹(事務局長)、野口勝志、堀川清、恵秀彦、龍久仁人、正田範満、南波克行、斉藤知茂、高橋努。

(支部委員：新任)

高嶋徳紘、稲越洋一、石塚昌孝、山崎保夫

なお、任期2年目の委員は、小島千代美、加藤満

(監事：再任) 宮川美知子、岸裕子

3号議案 平成26年度事業計画・収支予算(案)

まず、大久保支部長より平成26年度の活動方針について資料に基づいて説明があり、続いて、富樫事務局長より平成26年度の年間行動計画書(案)の説明、石塚会計より予算計画の説明を行い、質疑、意見が出され、審議後に原案は承認された。

審議事項が終了したのち、各委員会から26年

度の年間計画について抱負等具体的な説明やネパール登山・トレッキング隊の出発を控え、高橋副隊長の説明、古川隊長の挨拶などののち、総会は閉会となった。

引き続き、埼玉会館レストランに会場をかえて懇親会が開かれ、藤野会員の乾杯で盛大に開催された。支部長挨拶と26年度新入会員の紹介あり、出席した新人から挨拶があり、和やかにうちに野村孝義副支部長の閉会の辞によりお開きとなった。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

## 平成26年度活動方針

## —総会時の資料をそのまま掲載します—

日本山岳会は平成24年4月に公益社団法人に移行し、支部活動のさらなる充実が求められているなか、埼玉支部の事業は6つの委員会を中心に着実に進んでいるところです。

支部設立5年目を迎える今年度の大きな事業として、4月に支部設立5周年記念事業としてのネパールヒマラヤ・チュルー最東峰登山・トレッキング隊の遠征、10月には全国支部懇談会を主催します。海外登山に向けたトレーニングの過程において、会員の登山技術の向上や登山活動の目標設定についても好影響を与えていると思われます。また、10月に秩父地域で開催する全国支部懇談会は、支部の総力を結集しての準備が進行しているところです。これらのことからみて、過去4年間の積み重ねが今年度の事業展開へと発展していったものと思います。

一方で、今後さらなる強化や発展に向けた取り組みや検討課題もあります。

昨年7月の支部山行において歩行中の滑落事故が発生しました。これを教訓に一層の安全登山体制の整備と励行に努めているところですが、60歳以上が大半を占める埼玉支部の現状をみると、安全登山の実践に最大の配慮をしながら、高齢でも参加できる事業の工夫が重要になっています。さらに、支部の活性化に向けては、若手会員の入会を促進し登山技術の向上と魅力ある事業の実

施も視野に入れる必要があります。そのためにはリーダー養成の取り組みが喫緊の課題であり、支部以外の機能を活用することも含めた指導者養成の取り組みも選択肢の一つになります。

さらに、近年の日本におけるスポーツ組織は、「スポーツの一元化」という考え方で、広域的一体的な動きへと移行しています。県内の山岳組織の統括団体である埼玉県山岳連盟とは、これまでに講演会や研修事業などで連携を図ってきていますが、公益社団法人としての埼玉支部が埼玉県登山組織の一員としてどのように行動すべきかを考え、埼玉支部の発展と社会的な役割を果たすための長期的な視点で組織の在り方を検討する時期にあると考えられます。

平成26年度の支部運営の具体的方針は下に示したとおりです。事業については、従来どおり公益事業も含めた支部事業を各委員会が中心になって進めていきますが、一人でも多くの会員が支部運営に参画し、会員みんなで支部を構成・運営するという埼玉支部風土が醸成できることをめざしていきたいと思えます。

#### <方針>

- 1 会員の年齢層や登山歴を考慮した登山計画や会員の側に立った視点で事業を準備し、会員の参加率を高めるとともに、安全登山の啓発と実践を図る
- 2 リーダーの育成体制の整備
- 3 若手会員増加にむけた取り組み
- 4 各委員会活動のさらなる充実
- 5 事務局機能の分担化と円滑な支部運営を図る
- 6 全国支部懇談会成功に向け、多くの会員の参画と準備

## 【社会貢献委員会報告】

### 第4回ふれあい登山

#### 126名が春の里山ハイクを楽しむ

今年で4回目になる「障がい者とのふれあい登山」は、4月6日(日)に一般社団法人埼玉県障害者スポーツ協会と共同主催により開催し、障がい者(48人)付添(45人)山岳会関係(30人)、スポーツ協会(2人)の126人が、春の里山歩きを楽しんだ。

小川町役場前9:10集合。開始式・準備運動の後、班ごとに出発。本部班を含め11班編成だが、あらかじめ障がいや体力の状態に合わせ班を編成し、山岳会員には個人の情報も提供してチーム内のコミュニケーションや安全登山に配慮するように準備した。初めて参加する人や山道(特に下り)歩きに慣れていない人もいたが、山岳会会員は、4回目ともなると慣れた様子で対応していた。見晴らしの丘を経て11:40山頂着。班別で記念写真の後昼食。12:20下山開始。下りの歩行に不慣れな参加者がいたため1つの班だけ遅れ気味だったが林道に降りてからはスピードを取り戻し、15:30小川町役場到着。アンケートに記入、簡単な終了式を行い16時に解散した。

降雨を心配しながらの山歩きだったが、怪我や体調不良者はなく、多くの人が交流しながらの山歩きを楽しむことができた。参加者からのアンケートでも好評な事業であり、さて、来年はどの山に行こうか、駅から出発できる手ごろな山も少なくなってきた。(大久保春美 記)



【安全登山委員会報告】

## ハイキングレスキュー講習

### 県岳連遭難対策委員長を招き開催

平成26年6月15日(日)、埼玉県立加須げんきプラザで、講師には昨年同様、遭難対策の専門家である埼玉県山岳連盟・遭難対策委員会・委員長の瀬藤武氏を招き、会員10名が参加した。

講習では初めに研修室で、第6回講習会「ハイキングレスキュー講習」及び「ビバークに関する資料」の2種類のテキストを用いた机上講習があった。

レスキューは、安全な場所に避難して、山岳救助隊に渡すことであり、遭難場所からの搬出が目的ではないと指摘された。

また、山岳保険に入ること、必要最低限の装備、天気図の確認、登山計画の作成、緊急連絡カードの必要性、GPSの利用、等の重要性が指摘された。さらに、最低限の装備として、地図、磁石、雨具、ツェルト、ヘッドランプなどを持参すること、遭難者の70~80%は単独登山者で登山届を出していない、などの説明があった。



屋外での実地講習は以下のとおり。

- ① ツェルトの張り方、②テープスリングを用いた簡易ハーネスの結び方、③簡易搬送法では、ツェルトによる搬送、スリングによる背負い方、雨

具やザックによる背負い方など。

今回は、十分に時間をかけ、各自が納得できるまで練習を繰り返すことができた。今回のハイキングレスキューは実践的な内容で、身近な装備を利用したレスキュー講習であり、大変有益な講習会であった。これらのレスキュー講習は岩や沢登りに必要なばかりでなく、埼玉支部山行などでも利用可能な技術であると考えられる。

(松本敏夫 記)

【陸地測量部報告】

### 第3回支部員による講演会

## 日本登山史上初の冬山遭難

### 北ア・松尾峠の遭難をめぐる

講師：五十嶋一晃会員

毎回、支部会員を講師に招き開催している「支部員による講演会」は、平成26年3月6日(木)に浦和のコミュニティーセンターで、所沢市在住の五十嶋一晃



(No. 5092)氏に、大正12年1月に北ア・松尾峠で発生した板倉勝宣らの遭難について研究内容を講演して戴いた。

五十嶋氏は、漠然と松尾峠の遭難を取り上げるのではなく、当時の日本の登山状況と山案内人組合の話の詳細に解説、その上で松尾峠の事故について誤解がないように説明して下さいました。遭難について、板倉勝宣は当時日本一の登山者であったこと、そのため山に対する自信と元気が禍いしたのではないかと分析している。

五十嶋氏は、富山県上新川郡大山村(現・富山市)の出身。立山地方鉄道の粟巣野駅が終点であった頃の駅前にあった旅館兼土産物屋が実家で、立山案内人組合と大山登山案内組合の詰所でもあったことから、剣・立山・薬師方面の調査研究には最適人者

であった。

インターネットでも紹介されているが『立山カルデラ研究紀要第11号』の「芦峠ガイドの系譜」を見ると詳細な内容に驚かされるだろう。さらに平成21年に『山案内人 宇治長次郎』、平成24年に『越中 薬師岳登山史』、平成25年に『立山ガイド史』を次々に発行、その内容はいずれも驚かされる程詳細であった。そして今年8月4日、奥秩父の登山でも著名な田部重治生誕130年を記念し『田部重治の登山と英文学』という大書を田部重治研究会と共編著として発行される予定である。失礼ながら今後も大いに期待したいと考えている。 (遠山元信 記)

### 【埼玉100山 参加者からの報告】

## 有馬峠～蕎麦粒山～天目山

5月24日、初めて山行に参加させていただきました。目的地は「蕎麦粒山～天目山」。4年前の2月に東日原から登ったことがあります。埼玉から登らなければと諭され、それもそうだと思います。初コースを楽しみに参加しました。



しかし、順風満帆なスタートではありませんでした。まず、名栗湖から有馬峠までの林道では、道路を邪魔するように木々の枝葉が頭上に垂れ下がり、バスは遅々として進みません。そんな中、会員の一人が枝払いをしつつ先導してくれました。この姿に、バスの中では拍手その他で大盛り上がり。次に、有馬峠を出発したのはよいものの、すぐに稜線に出るはずが木の茂みの中へ・・・「ここは、こんなに踏まれないほど人が少ないコース

なのかな」等と考えていたら、やはり外れていたことが判明。こんなことがあるんですね。稜線に出たあとは、順調そのもの。

天気はまずまず、暑くもなく、新緑や花を愛でつつ、周囲の会話を思わず笑いながら歩くうちに、あっといいう間に蕎麦粒山へ着いてしまった。団体での山行は初めてでしたが、これも楽しいですね。残念だったのは、スタート時間が遅くなった都合上、天目山を断念したこと。でも、そのおかげでゆっくり温泉に入ることができました。それにしても、皆さんのパワーには驚きます。さすが、下山して温泉までのバス中はお休みタイムでしたが、温泉で汗を流しアルコールを注入したあとはまたパワー全開。このパワーを見習い、私も長く山歩きを続けたいと思いました。



(青木 正 記)

### 【3支部合同登山報告】

## 豪雨の中、山梨・多摩・埼玉

## 3支部会員が富士山麓に集合

山梨、東京多摩、埼玉支部による3支部合同登山は第3回目を迎え、今年は山梨支部が幹事支部となり、6月7日(土)～8日(日)に開催した。埼玉支部からは大久保支部長、富樫事務局長、清登、堀川、奥田、松本の6名が参加した。



宿泊施設は富士山麓の西湖南側にある「富士緑の休暇村」(山梨県都留郡鳴沢村)であった。

初日は 15:30 から交流会、講演会(16:00~17:00)、懇親会(18:00~20:00)が計画されていたため、大宮駅西口(10時)に4名が集合し、川越駅で2名が富樫車に同乗して、中央自動車道・東富士五湖道路で河口湖に向かう予定であった。ところが梅雨に入ってすぐの6月6日頃から関東地方は2日間で1ヶ月分の雨が降るといった記録的な豪雨に襲われ、圏央道と中央道が八王子を挟んで不通となり、並行する国道20号も大垂水峠が不通となってしまった。仕方なく津久井湖南側の国道413号、412号線で相模湖ICに向かった。結局、幹線道路の不通により迂回を余儀なくされた車の大渋滞に巻き込まれ、富士緑の休暇村についたのは19:40近くであった。既に懇親会も終わりに近い時間であったが、大宮から約10時間かって3支部が合流できた。

懇親会では山梨及び東京多摩支部の手厚い歓迎を受け、ビール、日本酒、甲州ワインなどが次々に運ばれてきて、短い時間であったが有意義な交流を持てた。山梨からは深沢支部長他16名が、東京多摩からは竹中支部長他5名が参加した。



翌8日は7:30から朝食、弁当を受け取り、宿舎の前で記念写真撮影となる。雨もやっと上がり富士緑の休暇村の背後に、雪に覆われた富士山頂が僅かの間ではあったが姿を見せた。Aコースのトレッキング班は吉田口登山道・馬返までバスで移動し、歴史のある吉田口登山道を9時に出発した。二合目から一時雨に降られたが昔の茶屋跡や神社跡などを巡りながら五合目の佐藤小屋で昼食、富士スバルラインの五合目には予定通り13時に着いた。バスで富士緑の休暇村に14時に戻る。Bコースの散策班はバスで西湖野鳥の森公園に行き、青木ヶ原樹海から竜宮洞穴や鳴沢氷穴を経て、歩いて富士緑の休暇村に戻った。A及びBコース共に危惧した豪雨に会うことも無く、富士山の歴史や自然を満喫でき、3支部の交流を深めることができた。

参加者全員は14時に富士緑の休暇村に集合し、解散式及び全員で写真撮影を行って解散となった。3支部交流会も2巡目に入り、来年の幹事は埼玉支部が担当である。

(松本敏夫 記)



### 本部事務局からのご案内

平成27年度から、山岳会年会費が預金口座から引き落としができるようになります。希望者は本部からの申込ハガキをご利用ください。  
事務簡素化に、積極的なご協力を!

### 埼玉支部からのお願い

メールアドレスを変更された場合、事務局へのご連絡をお忘れなく!

埼玉支部の会員異動

(平成26年7月7日現在139名)

入会：土田 常次 (13665)

田中摩利子 (15567)

古川 史典 (15546)

萬屋 譲 (15518)

萬屋 貴子 (15519)

退会：高橋 耕志 (13561)

笠原 紀子 (12126)

(会友異動)

入会：高橋八千代

退会：田中摩利子 (JAC 入会へ)

古川 史典 (JAC 入会へ)

南 賢司

・・・・・・・・・・・・・・・・

埼玉支部主催の全国支部懇談会

参加申し込みは7月31日まで

日時：10月18日(土)～19日(日)

会場：ナチュラルファームシティ農園ホテル  
(秩父市)

日程：1日目開始式、講演会と交流会

：2日目記念山行

(Aコース：両神山、Bコース武甲山、

Cコース琴平丘陵)

両神山コースは定員に達したため終了

費用：16,000円

定員：200名

締切：7月31日まで(定員になり次第締め切り)

※申込・問合せ先： 松本敏夫

〒362-0064 上尾市小敷谷747-6

電話 090-5338-0118

e-mail: toshio-matsumoto@jcom.home.ne.jp

参加申込については、上記松本のメールアドレス

または電話にて下記①～⑦をお知らせください。

氏名 ②ふりがな ③ 会員番号

④ 年齢 (10月18日現在) ⑤ 住所

⑥ 電話番号 ⑦ 登山希望コース

月	今後の事業予定
	(注)最終的な日時・場所、内容の変更などはホームページ、メールを参照下さい。
7月	・31日 全国支部懇談会実行委員会
8月	・2～3日 四季の山(夏)☆☆☆ 甲武信岳～三宝～木賊～雁坂峠 ・25日 全国支部懇談会実行委員会
9月	・未定(平日予定)救急法講習会 ・6～7日(埼玉100山) 三国山☆と宗四郎山☆☆☆(バス利用予定) ・24日 全国支部懇談会実行委員会 ・28日 森づくり(狭山丘陵) ・27日 両神山、武甲山、琴平丘陵 全国支部懇談会準備登山
10月	・未定 全国支部懇談会実行委員会 ・4日(埼玉100山) 酉谷山☆☆☆ ・18・19日：全国支部懇談会(埼玉支部主催)
11月	・1～2日 四季の山(秋) 八海山☆☆ ・16日 自然観察会 越生町 ・23～24日 鹿被害実態調査 ・未定 読図講習会
12月	・13～14 忘年山行・講演会 (名栗げんきプラザ泊、横瀬二子山)
27年	・17日 新年支部懇談会
1月	・24日 県警山岳救助隊の安全登山講演会

【編集後記】急遽、編集作業を担当しました。紙面構成など不慣れなため、読みづらいかもしれませんが、お許しください。  
編集委員を募集しています。自宅で作業をしていただければ結構ですので、ぜひ手をあげてください。(H・O)

公益社団法人日本山岳会 埼玉支部報 第12号  
2014年(平成26年) 7月11日発行  
公益社団法人日本山岳会埼玉支部  
発行者：大久保春美

事務局：〒365-0053 鴻巣市緑町5-16 富樫方  
e-mail: toga913nt@ybb.ne.jp  
HP：  
<http://jac.or.jp/info/shibudayori/saitama/index.html>